

関東・東北豪雨を受けた「避難を促す緊急行動」

出水時に河川管理者から提供される情報とその対応等を首長と確認

－ 和歌山河川国道事務所 －

この度の平成27年9月関東・東北豪雨により、全国各地において浸水被害等が発生しており、特に鬼怒川の堤防が決壊した茨城県常総市では、約1万1千棟が浸水するなど甚大な被害が生じました。今回の水害を受け、

- [1]堤防決壊に伴う氾濫流による家屋の倒壊・流失
- [2]地方公共団体による避難判断、広域避難
- [3]避難の遅れと長時間・広範囲の浸水による多数の孤立者の発生

の3点を対処すべき主な課題と捉え、全国の市町村長や堤防沿いにお住まいの住民の方々の不安や懸念に応えるための「避難を促す緊急行動」を実施することとし、その一環として洪水予報、ホットラインなど出水時に河川管理者や各機関から提供される情報とその対応等を**紀の川沿川市町の首長**と確認し、意見を交換しました。

概要

対象河川：紀の川水系紀の川

紀の川水系位置図



- 日時：平成27年10月29日（木）14:00～16:00
- 場所：紀の川市役所 本庁舎 3階 庁議室
- 参加者：紀の川沿川7市町、気象庁、国土地理院、近畿地方整備局河川部、和歌山河川国道事務所

【確認内容】

- ・関東・東北豪雨に係る被害及び復旧状況
- ・新たなステージに対応した気象台の取組
- ・基準水位観測所設定水位、ホットライン（事務所長から市町長へ直接連絡）での情報提供内容、重要水防箇所
- ・タイムラインの効果
- ・ハザードマップポータルサイト
- ・災害時にトップがなすべきこと、過去の水害事例と教訓及び水害対応チェックリスト

その他、市町長が避難勧告発令の目安となる「氾濫危険水位」など河川管理者が出す情報の活用を確認した上で、こうした情報が出るまでの連絡を密に取り合うことや、水防上重要な区間について、現場のパトロールや河川管理用カメラ、水位計などで状況をリアルタイムで把握し、ホットラインで伝えることなど、**市町との情報のやりとりを強化していくことを確認**しました。



（出典：テレビ和歌山放映より）

【交換されたご意見等】

- ・夜中の避難は無理なので、明るいうちに避難判断をしたい。
- ・的確な情報を出来るだけ早く欲しい。
- ・ライブカメラのリアルタイムな情報を活用して避難体制をとりたい。
- ・昼間に避難勧告を出すのが住民が逃げてくれない。
- ・紀の川の改修を急いで欲しい。

報道

以下の報道機関に記事等を取り上げられました。

- テレビ和歌山
10月29日(木)
「ニュース&情報5チャンネル」
- 毎日新聞
11月8日(日)朝刊

【問い合わせ先】

国土交通省 近畿地方整備局
和歌山河川国道事務所調査第一課
〒640-8227
和歌山市西汀丁16番
TEL 073-402-0265

